

第18回 文京区地域医療連携推進協議会
小児初期救急医療検討部会（ハイブリッド開催）
（議事要点記録）

日時 令和6年12月13日（金）午後7時00分から
場所 区議会第二委員会室（文京シビックセンター24階）

<会議次第>

- 1 部会長等挨拶
- 2 報告・議題
 - （1）豊島文京こども救急の事業実績について
 - （2）子どもの救急・急病ガイドブックについて
 - （3）その他
- 3 閉会

<配布資料>

- 資料第1－1号 豊島文京こども救急 事業実績（令和4年10月～令和5年9月）
資料第1－2号 豊島文京こども救急 事業実績（令和5年10月～令和6年9月）
資料第2号 子どもの救急・急病ガイドブック（区ホームページより）
参考資料1 文京区地域医療連携推進協議会設置要綱
参考資料2 文京区地域医療連携推進協議会小児初期救急医療検討部会員名簿
参考資料3 豊島文京（平日準夜間）こども救急チラシ

<出席者>

松平隆光部会長、大塚宜一部会員、檜崎秀彦部会員、細川奨部会員、福永英生部会員、
松井彦郎部会員、佐藤毅部会員、矢内真理子部会員

<欠席者>

内海裕美部会員、古道一樹部会員、金海仁美部会員

<オブザーバー>

寺崎仁地域医療連携推進協議会会長

<事務局>

田口健康推進課長

<傍聴者>

0人

1 部会長等挨拶

田口健康推進課長（事務局）；それでは、定刻となりましたので、これより第18回文京区地域医療連携推進協議会小児初期救急医療検討部会を開催したいと思います。私は、文京区保健衛生部健康推進課長の田口と申します。どうぞよろしくお願いいたします。また、本日は師走のお忙しい中、会議へのご出席、ご参加をいただきまして誠にありがとうございます。本日の会議は、オンラインの参加と、それから会場での参加のハイブリッドでの形式となりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、まず初めに、開会にあたりまして、文京区保健衛生部長の矢内よりご挨拶申し上げます。

矢内保健衛生部長；部会員の皆様、こんばんは。保健衛生部長の矢内でございます。日頃より、文京区の医療連携体制の構築、また、小児初期救急の充実にご尽力をいただきまして厚く御礼を申し上げます。

また、本日は年末の慌ただしい中、遅い時間にもかかわらず、ご出席をいただき誠にありがとうございます。

今年は、夏ぐらいからマイコプラズマの流行がずっと続いておりましたけれども、少し落ち着いてきたと思ったら、今度は伝染性紅斑と手足口病がかなり流行している状況で、インフルエンザの流行も始まりました。百日咳と水疱瘡は大人のものが多いんですけれども、ちらちら出ているという状況で、今後、年末年始に子どもの感染症に関しては、かなり先生方のお世話になることが多くなるのではないかと思います。

本日は、第18回目の文京区小児初期救急医療検討部会ということで、先生方から様々なご意見を賜りながら、施策に生かしていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

田口健康推進課長（事務局）；それでは、会議の開催にあたりまして、事務局より皆様へ幾つかお願い事項がございます。

オンラインでご参加の皆様につきましては、カメラをオン、マイクはミュートに設定していただきますようお願いいたします。

次に、ご発言の際のお願いです。オンライン参加の皆様は、ご発言の際にはミュートを解除、オフにしてからお話いただきますようお願いいたします。また、ご質問はチャットではなく口頭でお願いできればと存じます。会場参加の方につきましては、目の前にありますマイクのスイッチボタンを押してからご発言し、発言が終わりましたらスイッチを切っていただくようお願い申し上げます。

なお、本日の会議の要点記録を作成する都合上、録音を行っております。恐れ入りますが、皆様ご発言の際にはお名前をおっしゃっていただいた後にお一人お一人ご発言をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

それでは、これより先は松平部会長に進行をお願いしたいと存じます。松平部会長、どうぞよろしくお願いいたします。

松平部会長；松平と申します。今日はよろしくお願いいたします。

先ほど、矢内保健衛生部長のお話にもありましたとおり、寒くなってきました子どもたちの感染症がたくさん増えてまいりました。こういう忙しい中にお集まりいただきまして本当にありがとうございました。

それでは、事務局より本日の出席状況の報告及び配布資料の確認をお願いいたします。

田口健康推進課長（事務局）；それでは、事務局より本日の部会員の皆様の出席状況をご報告させていただきます。

本日は、小石川医師会会長の内海様、東京都立大塚病院小児科部長古道様、文京区民生委員・児童委員協議会本富士地区主任児童委員の金海様、がご欠席となります。

また、東京都立大塚病院小児科部長古道様の代理としてご出席予定でした東京都立大塚病院小児科医長江崎様もご欠席となりました。

そして、当検討部会の親会に当たります文京区地域医療連携推進協議会の寺崎会長にもオブザーバー参加をさせていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、本日の配布資料について確認をさせていただきます。資料は、メールにてお送りしております。

それでは順に確認させていただきます。

まず、本日の次第です。続きまして、資料第1－1号豊島文京こども救急事業実績（令和4年10月～令和5年9月）、続いて、資料第1－2号豊島文京こども救急事業実績（令和5年10月～令和6年9月）、そして資料第2号子どもの救急・急病ガイドブック、こちらはメール送信するにはデータ容量が大きかったため、文京区ホームページのリンクを貼らせていただいておりますので、そちらからご覧いただければと存じます。

そして、参考資料第1号文京区地域医療連携推進協議会設置要綱、参考資料第2号文京区地域医療連携推進協議会小児初期救急医療検討部会員名簿、参考資料第3号豊島文京（平日準夜間）こども救急のチラシです。

資料といたしましては以上となりますが、不足等はございますでしょうか。

松平部会長；それでは今回、新たに部会員となられた2名の方に、一言ご挨拶をお願いしたいと思います。古道部会員は本日欠席でございますので、檜崎部会員にご挨拶をお願いしたいと思います。檜崎部会員どうぞよろしくお願いいたします。

檜崎部会員；今回より参加させていただきます日本医科大学付属病院小児科の檜崎

と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

2 報告・議題

(1) 豊島文京こども救急事業の実績報告について

松平部会長；それでは、報告、議題に移らせていただきます。

次第2の報告・議題に入ります。報告・議題(1)豊島文京こども救急の事業実績につきまして、事務局より報告をお願いいたします。

田口健康推進課長(事務局)；それでは、事務局から報告・議題(1)豊島文京こども救急事業実績につきましてご報告させていただきます。

資料は第1-1号と第1-2号の2点でございます。こちら、それぞれを相互に見比べながらご説明してまいりますので、よろしくお願いいたします。

こちらの資料第1-1号につきましては、令和4年10月から令和5年9月までのもの、そして資料第1-2号につきましては、その翌年の令和5年10月から令和6年9月までのものとなっております。こちらの資料ですが、期間をそれぞれ10月から9月までの1年間ということで作成してございます。こちらの事業が、令和元年の10月から始まった関係でこうした形で資料を作らせていただいております。

本日は、こちらの資料第1-2号を直近の1年間、資料第1-1号をその前の1年間ということで比較する形でご報告させていただきます。

主に資料第1-2号を中心にお話させていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、資料第1-2号令和5年10月から令和6年9月までの分でございます。まず、こちらの表の一番上の行、左から3列目に1日当たりの平均の患者数とございます。この一番下の行をご覧くださいますと、1日当たりの平均患者数を年間でならずと1.58人でございます。その前の1年間、資料第1-1号になりますが、こちらにつきましては1.77人でございます。比較いたしまして1日当たり0.19人の減でございます。

その隣です。1年間全体としての患者数につきましては、この右隣に①取扱患者数とございます。こちらにもございますように、ここ1年間では381人合計となっております。資料第1-1号では年間の患者数が428人でしたので、47人の減となっております。

内訳でございます。新来院の方につきましては52人の減、再来院の方につきましては5人の増ということで、新規に来院される方が減った状況でございます。

続きまして、その右隣の②の時間帯(受付時間)でございます。こちらの豊島文京小児救急ですが、平日夜間月曜日から金曜日までの夜の8時から11時まで診療を行っております。その受付の時間帯ですが19時台、20時台、21時台、22時台とございますが、19時台が昨年の41件から40件と1件の減となっております。それから20時台につきましては昨年の166件から172件と6件の増です。そして

21 時台、こちらは昨年 138 件だったものがその翌年が 102 件ということで 36 件の減。それから、22 時台ですが、こちら 83 件から 67 件と 16 件の減となっております。20 時台を除きまして全体的に受付の件数も減っております。

そして、続きまして右隣③の年齢でございます。0 歳の方につきましては、67 人から 47 人ということで 20 人の減、1 歳から 4 歳の方は 207 人から 149 人と 58 人の減、5 歳から 14 歳の方につきましては 151 人から 176 人ということで 25 人の増、15 歳の方につきましても 3 人から 9 人ということで 6 人の増という状況でございます。

次に、その右隣④の患者さんの住所でございます。豊島区の方につきましては 154 人、前年より 23 人の減、文京区につきましては 191 人、前年より 6 人の減となっております。また、豊島区、文京区以外のお住まいの方につきましては 36 人、こちら前年よりも 18 人の減となっております。資料第 1-2 号、こちらの下の方に④住所ということで円グラフがあります。円グラフをご覧くださいと、前年と比べまして利用割合が、文京区民が 50% となりまして、前年と比較しまして全体の中での文京区民の利用割合は上がっている状況でございます。

次に、大塚病院の小児科への引継ぎでございます。こちらはこども救急の時間を過ぎて 23 時以降にいらした方に対しまして、大塚病院に救急対応ということで診療をしていただいております。まず、帰宅対応のところでは、診療後に帰宅いただいた方は 7 人ということで、前年よりプラス 3 人となっております。あと、入院対応ということで、そのまま入院された方が 2 人おりましたが、こちらは前年と同数でございます。

最後に電話相談でございます。合計で 605 件となりまして、こちらは前年よりも 150 件の減となっております。

資料第 1 号につきましてはのご報告は以上となります。

松平部会長；ありがとうございました。

今、2 年にわたる事業実績につきましてご説明をいただきましたけれども、ご質問のある方はお願いいたします。

なかなか来院される方の数は少ないまま推移していますし、前年度と比べますとやや減少傾向にあるということになっておりますけれども、何かご意見はありますでしょうか。

よろしいでしょうか。後でまた一括してご質問を受けたいと思います。

(2) 子どもの救急・急病ガイドブックについて

松平部会長；それでは、次に報告・議題(2) 子どもの救急・急病ガイドブックについてご説明をいただきたいと思います。

田口健康推進課長(事務局)；それでは、報告・議題(2) 子どもの救急・急病ガイ

ドブックについてご報告申し上げます。こちらは毎年、当検討部会におきまして、皆様方からご意見をいただきまして、ブラッシュアップをかけながら隔年で2年に1回印刷しているものでございます。

今回は、昨年度に修正作業を行いまして、今年度に印刷をしたものをお配りしております。

直近では特に大きな変更はございませんでした。主なものといたしましては、各検討部会部会員の皆様から寄せられましたご意見や指摘事項を基にした文言修正、それからホームページURLの変更、それから対応時間が変更になっていたりしましたので、直近の対応時間に修正をさせていただきました。

これまでも、イラストやレイアウトなどを刷新したり、各ページに見出しをつけて検索しやすくするなど工夫をしてみいました。

それから、それまでは4か月健診の際に配っておりましたが、昨年の検討部会の中で、児童館にも配架してみてもどうかというご提案をいただきましたので、各児童館へ送付させていただきました。

こちらのガイドブックは、令和6年度と令和7年度はこのまま配布となりますが、来年、令和7年度が見直し作業を行う年となります。

部会員の皆様方から何かご意見等がございましたらいつでもお聞かせいただきたいということと、また、来年の秋頃に、改めて事務局からメールや書面等でアンケートのような形で皆様方にご意見を伺いたいと考えておりますので、その際はどうぞよろしくお願いいたします。

報告は以上でございます。

松平部会長；ありがとうございます。

今、ご報告いただきました子どもの救急・急病ガイドブックにつきまして何かご意見、ご質問がありましたらお受けしたいと思っております。どうぞよろしくお願いします。

大分このガイドブックも分かりやすくなって、受付に置いておきますと、皆さん結構お持ちになるので利用されていると思いますけれども、何かご質問、ご意見はありますでしょうか。よろしいですか。

それでは、次にかせていただきます。

(3) その他

松平部会長；報告・議題（3）その他でございます。

部会員の皆様よりご意見、ご報告、情報等ありましたらどうぞご発言いただきたいと思っております。

今、豊島文京こども救急事業が、毎日1人とか2人の来院数なんですけれども、文京区民の方たちは大学病院などに時間外に回っていらっしゃる現状があるんでしょうか、それをお聞きしたいと思います。日本医科大学付属病院お願いいたします。

す。

檜崎部会員；日本医科大学付属病院の檜崎でございます。

大体は電話で問合せがあって、当直医と相談した上で直接受ける場合もありますし、全くない日もないわけではないので、ほとんどの方が直接ということはないと思います。

松平部会長；ありがとうございました。

それでは、順天堂大学医学部附属順天堂医院からご報告をお願いいたします。

福永部会員；順天堂大学医学部附属順天堂医院の福永です。

私どものほうも、基本的には直接来院される方というよりは、まず受診相談をされて、その上で当直医の指示のもとに受診されるケースが多いので、もしかすると、さっきの資料と鑑みてみますと、相談件数がそこそこあるということなので、そこで解決するケースも結構多いのかなと思ひまして、相談業務というところも、一つのこの救急の役割としては重要なのかなと思うところがあります。受診される方は、すごく今多いというわけではないので、例年と大きな変わりはないんじゃないかなと思います。

以上です。

松平部会長；ありがとうございました。

具体的には、毎日1人か2人くらいで、10人も20人もなるということはないんですか。

福永部会員；10人も20人もなるほど多くはないんですけれど、1人、2人というよりは5人前後ということが多いみたいです。

松平部会長；ありがとうございました。

それでは、東京大学医学部附属病院の松井先生からお願いいたします。

松井部会員；東京大学医学部附属病院の松井です。

東京大学ですが、基本的には順天堂大学と同じように、当日に直接来院されるような方は非常に少ないです。1日1人いるかないくらいです。

それ以外には、救急車で来院されるという方が時々いらっしゃるんですけども、それは一次救急というよりは二次、三次救急というような形になっております。

今年に入りまして、コロナも完全に開けて、また何か新しいのがあるのかなと思ったんですけども、案外そういうこともなく、少ないまま移動しているというふうな形に思っ、また以前とはちょっと違うような感触となっているのかなと思っております。

以上です。

松平部会長；ありがとうございました。

今、3大学の先生方からご説明いただきましたけれども、豊島文京こども救急事業が、人数が少ないという現状がございますけれども、文京区民の方、豊島区民の方が大学病院に回っているという現状はなさそうなので、時間外診療というのはそんなにニーズがないのではないかという気がいたしますけれども、ご意見をいただきたいと思います。どうでしょうか。

松井部会員；東京大学の松井です。我々もよく当直をしているんですけれども、やはり入院患者が来たりとか、あと三次の重症患者が来たりすると、なかなか一次のほうまで手が回らないというのがありまして、そういう意味でいうと、やはり救急をやる医療とすると一次、二次、三次の振り分けというのはすごく大事で、必ずしも我々のところにちょっと来ているからというよりはむしろ一次の患者さんは、都運営しているところに集まってというふうな枠組みがすごく大事なかなと思うので、決してニーズが少ないとは、私はちょっと思っていないので、ぜひそういった中でも効率的な運営ができればなというふうに思っております。

松平部会長；ありがとうございました。

実際この事業に参加されている大塚先生、何かご意見をいただきたいと思います。

大塚部会員；文京区医師会の大塚です。

数が少ないというのは、やっている本人とすればもうちょっと来ていただいてもいいのかなと正直思うんですけれども、この事業を、文京区民の方が実際にどう思っているかというのも少し気になるところです。例えばこの事業に関して、感謝の言葉であるとか、あるいは、もっとこういうサービスをすべきだとかそういう区民の方の声というのはあるのでしょうか。もしあれば教えていただきたいなと思いましたがいかがでしょうか。

松平部会長；行政の方のご発言をいただきたいと思います。どうでしょうか。

田口健康推進課長（事務局）；事務局よりお答えします。

直接のお声をいただくことはあまりないのですが、ごくたまに、電話というよりメールで、急に対応を受け付けていただいて助かりました、というような感謝の言葉はございます。

あとは、期待がかなり大きい反面、受付までのやり取りに少し時間がかかってしまったとか、電話での受付の対応に少し時間がかかってしまったときに、少し分かりづらいとか、そういったようなことも一部いただいておりますが、感謝の言葉と

いうのも昨年度は何件かいただいております。

大塚部会員；ありがとうございます。もし可能であればそういうお言葉もこの会議で出していただけると、また我々も医師会のほうでそういう情報を還元できるかなと思いますので、ぜひまた、まとめていただければと思います。

松平部会長；ありがとうございました。

それでは、区民を代表されて、この部会員になっておられる文京区民生委員・児童委員協議会 大塚地区民生委員・児童委員の佐藤様、一言ご発言をいただきたいと思います。

佐藤部会員；昨年、ガイドブックの件で、配布の方法をもう少し広げられないかというお話をしたんですけれども、おそらく今の若いお母さん、お父さん方は、本よりもSNSで情報収集していると思うんです。ですから、こういうのをホームページに誘導するためにSNSでどれだけ広げられるかということで、例えばなんですけれども、学校でこういうホームページがありますよということを、例えば1年に1回、今は電話連絡網はないので、多分LINEか何かの連絡網はあると思うんです。そういうのを使って、もう少し広げるというような施策をされるのが効果的ではないかなと思うんですけれども、どうでしょうか。

松平部会長；ありがとうございます。

行政の方のご意見をいただきたいと思います。

田口健康推進課長（事務局）；ご意見をありがとうございました。

学校の関係ということですので、こちらも検討して、教育委員会にどのような形で周知できるかということで相談してみたいと思います。ありがとうございます。

松平部会長；ありがとうございました。

そのほか、何でもよろしいのでご意見、ご発言いただきたいと思います。

細川部会員；一つよろしいですか。武蔵野赤十字病院の細川です。

外来の予約の方法について確認をさせていただきたいのですが、どんな形になっているのでしょうか。電話をしてという感じですか。

松平部会長；この事業の予約ですか。

細川部会員；いえ、受診を大塚病院さんにしたいという場合に、電話で直接大塚病院に電話している感じなんですか。

松平部会長；平日のことでしょうか。

細川部会員；平日です。夜間救急される時です。というのは、今、ほかの先生方のお話もあったかと思うんですけど、せっかく準夜間帯に開業の先生方が協力してくださっているのもっと受診しやすくするということで、広報というところが一つあるかと思います。今おっしゃられたSNSで考えると、例えば最近は、クリニックさんがWEB予約をされていると思うので、そういった形で何か受診しやすくというか、予約というか電話連絡が一番いいと思うんですけども、何か受診しやすくするともうちょっと来ないですかねというふうに思いました。

松平部会長；この事業に関しては、予約制を取っておりませんで、事務のほうに電話がきまして、必要であれば来ていただくという形です。その電話だけで、電話相談で終わることもあると思いますけれども、そう来院しづらいシステムでは、この事業に関してはないと思います。昼間、大塚病院にお願いするときには、やはりお電話して紹介状を我々を書いてお渡ししますけれども、割とスムーズにいつていると思います。

細川部会員；分かりました。ありがとうございます。

松平部会長；そのほかご発言ありますでしょうか。

福永部会員；順天堂大学医学部附属順天堂医院の福永です。ちょっと教えていただきたいんですけども、いわゆる、初期救急事業というものに関して、担当の事務さんにお電話をされて、それで受診の指示を受ける方が多いのか、直接来院で受診される方が多いのか、今どのような割合になっているんでしょうか。

松平部会長；ほとんどの方は電話をされて、それで事務のほうで振り分けて受診されているので、直接来られる方は比較的少ないと思います。

福永部会員；私たちの視点からすると、相談して済むのであればそのほうがいいのかという形もあるかもしれないんですけど、案外親御さんとしては、取りあえず診てほしい、ちょっと表現が難しいんですけど、意外と相談してブロックされてしまう、そんなことはないのかなと思ったりもしたんですが。

松平部会長；それはないと思います。比較的、夜電話対応される方はベテランの方で、ご家族が来たいと言えばスムーズに来院させていただいていると思います。

福永部会員；基本的には、先ほど松井先生もおっしゃっていましたが、やはり一次救急でトリアージ（治療の緊急性や症状の重症度から治療の優先順位を決定し

て搬入・治療などをおこなうこと)された中で、必要であれば二次、三次にといくのが、医療体制が守られるには大事なので、引き続き、医師会の先生方に頑張ってもらえばなというふうに、大学病院勤務医師としては思いますので、よろしくお願いいたします。

松平部会長；ありがとうございました。

檜崎部会員；日本医科大学の檜崎です。

先ほど、松井先生と福永先生からも大学病院のほうと一次と二次、三次の切り分けをということでお話いただいたんですけども、事業としてなるべく受診を増やしたほうがいいのかとか、実は電話相談だけでも実績としていいのかというところがちょっと変わってくるかと思うんですが、実際に当直をしていると、受診した方がいいのかしなくていいのかという問合せも結構あるので、もしチラシに相談だけでもいいから、というような形の何かが書いてあれば、相談の電話がしやすくなって、電話相談の実績としては増えるということは期待できるかなと思いました。

松平部会長；ありがとうございました。

その件についてはこれから検討させていただきたいと思います。
そのほか何かございますでしょうか。ほかの先生方よろしいでしょうか。
皆様にご意見をお伺いして、まだご発言にならない方でご意見がありましたらお受けしたいと思います。

それでは、事務局のほうにマイクをお返ししてよろしいでしょうか。

3 閉会

田口健康推進課長（事務局）；皆様、本日は熱心なご議論、誠にありがとうございました。

それでは、本日の会議につきましては、これにて閉会とさせていただきます。本日はお忙しい中、誠にありがとうございました。